

kkj

令和4年度
事業活動報告書



一般社団法人 環境共生住宅推進協議会

令和5年3月

目次

令和4年度事業活動概要	1
1. 推進活動	3
1-1 環境共生団地・まちづくり事例の分析・整理	
1-2 環境共生住宅事例データベースの拡充	
2. 調査研究活動	6
2-1 環境共生住宅推奨部品を組み込んだ「お勧め 建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び 作成	
2-2 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・ 管理	
3. 広報活動	8
3-1 ホームページの運用	
3-2 会員へのサービス提供	
3-3 会員拡大や協議会の認知度向上等に向けた 広報活動	
4. 普及展開活動	18

令和4年度事業活動概要

令和4年度事業計画に基づき、次の事業の取り組みを推進・実施した。

1. 推進活動

(1) 環境共生団地・まちづくり事例の分析・整理

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で扱っていない『環境共生団地・まちづくり』について、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化を図ることを目的に、会員からの情報提供などにより事例情報を収集した。

また、令和3年度に引き続き、実際に導入された対策内容、現在の環境の状況、計画時から現在に至るまでの各種課題などを把握するために、竣工後ある程度の期間が経過した「環境共生団地・まちづく事例」(5事例)を対象に、現地視察や計画者へのヒアリング調査を本格的に実施し、調査で得られた内容については、事例シートとして取りまとめた。

(2) 環境共生住宅事例データベースの拡充

環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅事例データベースの拡充を図った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。本年度は、会員企業から情報提供された4事例について、令和5年3月末にkkjサイトへ情報を掲載した。

2. 調査研究活動

(1) 環境共生住宅推奨部品を組んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成

「品確法」に基づく住宅性能表示制度の断熱等性能等級の上位等級である等級5と等級6、7創設、及び一次エネルギー消費量等級6創設に伴い「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の改訂作業を行った。

検討内容は、両ガイドの更新の予定や作成方針、掲載内容、レベル設定の方針などである。「お勧め建材ガ

イド」は、6地域編、7地域編の改訂を検討し、6地域編の原稿を作成した。また、「お勧め設備ガイド」は、全地域を対象とし、掲載設備機器の種類を検討した上で、6地域編の原稿を作成した。

(2) 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理

推奨部品の登録及び利用の拡大を目指し、新たな推奨部品の登録に向けた検討を行うとともに既存部品分類の見直しを行った。具体的には、新規部品分類の追加及び既存部品分類の見直しを行い、合わせて推奨基準や環境性能等の強化・拡充項目の追加や見直し、ホームページ掲載内容やアイコンの更新を行った。

また、合わせて環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」についても修正を行った。

3. 広報活動

(1) 環境と共生する家づくりに関する情報発信

①ホームページの運用

kkjサイトへのアクセス数は、アクセス数とページビュー数と共に昨年度より減少した。

エンドユーザーに向けて、環境共生住宅の良さやここでの暮らし方についての情報発信を引き続き実施した。

令和3年度から4年度前半までの期間で、kkjサイトの詳細なアクセス解析を行い、「kkj★Kids」と「くまの家ものがたり」が授業で使われていることが明らかになったことを受けて、子ども向けの副教材「環境共生住宅とSDGs」を制作・公開した。合わせて、当協議会の創立30周年記念に作成したパンフレット「kkjの30年目の取り組み/SDGsへの対応」の内容を元に、子ども向けのWEBページも制作・公開した。

②居住者インタビューの実施

環境と共生する住まい手へのインタビューを通し、東京から北海道へ移住を決めた経緯や、既存住宅のセルフリノベーションの様子、またパーマカルチャーによる自家菜園の実践など、厳しくも豊かな北海道の自然環境と共生する暮らしぶりについて紹介することができた。

(2) 会員へのサービス提供

①見学会の開催

第1回では、地域住民との新しい価値の創出、最新の環境・設備技術や SDGs 対応等の仕様とデザインで建てられた研修施設を見学し、オプションとして奈良県の森林資源の育成と技術開発・新製品開発などを行っている企業の視察と吉野林業を体感する見学会を実施した。

第2回では、「快適な住空間、万々に備えた住まい」を改修コンセプトとし「LINKED HOUSE—つながる家—」等を提案した実験集合住宅を見学し、オプションとして超高齢社会の課題を先取りする多世代共生型の健康スマートタウンの見学会を実施した。

計2回の見学会で延べ37名が参加した。

②交流セミナーの開催

第1回では、2025年の省エネ基準適合義務化や2030年の省エネ基準のZEHへの引き上げと義務化（予定）をふまえた今後ますます高まる住宅・建築物に関する対策の重要性をテーマとしたセミナーを開催した。

第2回では、脱炭素社会実現に向けた施策や取り組み、世代を超えたSDGsへの対応、ウクライナ情勢による様々な影響等、国内外の動向を見据え幅広い視点からの「新しい環境」変化への向き合い方をテーマとしたセミナーを開催した。

第3回では、環境的視点から建築・都市デザインを見直し自然とつながるデライトフルな建築を中小オフィスビルで展開した考え方や手法等をテーマとしたセミナーを開催した。

計3回のセミナーを開催し、延べ200名が参加した。

③技術研修交流会の開催

令和4年度は開催しなかった。

④機関誌の発行

独自の取材記事や協議会主催の見学会、交流セミナー等の実施レポートをまとめ、計1回発行した。

⑤kkjの活動情報発信

kkjサイトの会員専用ページでは、最新情報への更新・追加に努め、会員向けの情報の充実化を進めた。

(3) 会員拡大や協議会の認知度向上等に向けた広報活動

①kkjサイトの解析結果を活かした広報・普及活動の展開

kkjサイトを中心に、協議会の活動や環境共生に関する最新情報を積極的に発信した。またサイトのアクセス解析結果を活かし、kkjサイトの改編を行い、より効果的な広報・普及活動を展開した。

②地域からの便りの発行

日本の各地で活動している専門家による声を「地域からの便り」として1回発信した。沖縄県／那覇市から、環境と共生する住まいや暮らしについての記事を紹介した。

4. 普及展開活動

脱炭素社会やSDGsに賛同する組織として、体制や活動内容等の更なる充実を図るとともに、kkjの活動成果（出版物やツール等）や蓄積している知見等を効果的に活用し、地域の工務店・設計事務所等を中心に、環境共生住宅やパッシブデザインの普及に資する活動を展開し、会員拡大を図る活動を実施するとともに、脱炭素社会推進会議に入会し、kkjの活動内容を報告した。

1. 推進活動

1-1 環境共生団地・まちづくり事例の分析・整理

(1) 概要

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で取扱いのない『環境共生団地・まちづくり』について、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化を図ることを目的に、昨年度に引き続き会員からの情報提供などにより事例情報を収集した。

また、昨年度に引き続き、実際に導入された対策内容、現在の環境の状況、計画時から現在に至るまでの各種課題などを把握するために、竣工後ある程度の期間が経過した「環境共生団地・まちづくり事例」を対象に、現地視察や計画者へのヒアリング調査を行い、調査で得られた内容については、事例シートとして取りまとめた。

(2) 実施内容

①令和3年度に収集分析した全国の「環境共生団地・まちづくり事例」の情報を基に、竣工後ある程度の期間が経過した特徴的な「環境共生団地・まちづくり事例」（次の5事例）を対象に、現地視察や計画者へのヒアリング調査を本格的に実施した。（図1-1）

- 1) Fujisawa サステナブル・スマートタウン（神奈川県藤沢市）
- 2) 台の森プロジェクト（宮城県仙台市）
- 3) 黒部パッシブタウン（富山県黒部市）
- 4) SMA×ECO TOWN 晴美台（大阪府堺市）
- 5) オガール日詰二十一区[紫波町エコタウン]（岩手県紫波町）

②調査内容を「事例シート」として取りまとめた。（図1-2）

③本年度は、推進部会のメンバーからの情報を基に調査を実施した。その結果、現地調査&ヒアリング調査を計画的に行うことができた。その一方で、コロナ禍のため、現地調査の参加可能人数が制限されるなど、調査に一部制限があった（事務局を中心とした現地調査+その様子をメンバーにWEB配信を行うなど工夫して実施）。



《Fujisawa サステナブル・スマートタウン》



《台の森プロジェクト》



《黒部パッシブタウン》



《SMA×ECO TOWN 晴美台》



《オガール日詰二十一区[紫波町エコタウン]》

図1-1 令和4年度に実施した視察&ヒアリング調査事例

④次年度も引き続き、現地調査並びにヒアリング調査を継続して行く予定である。その調査内容を「事例シート」として整理し、部会メンバーはもちろん kkj 会員に対し広く情報共有していく予定である。

環境共生団地・まちづくり事例視察・ヒアリング調査【第1回 エムスマートシティ熊谷】

本資料は、2022年1月18日（火）に実施された「第1回事例視察・ヒアリング調査（場所：エムスマートシティ熊谷）における事例視察&ヒアリング調査の概要を整理したものです。

■実施日：2022（令和4）年1月18日（火）

■ヒアリング対象者：

小田辺 統一（ウィズガーデン株式会社 執行役員 景観事業部事業部長設計建設本部副本部長）
 平山 由佳理（株式会社ミサワホーム総合研究所 環境ビルドセンター ササナア 技術研究室 室長代理）

今日お邪魔しているのは埼玉県熊谷市のエムスマートシティ熊谷という約10年前にミサワホームが熊谷市内に開発した住宅団地です。熊谷市は「日本一暑いまち」ということを標榜している街です。その街において、10年ほど前に、全棟ZEHによるゼロエネルギー住宅づくりを通じて、日本一暑いまち熊谷において涼しく快適な環境を街として実現するということを目指しました。本日は、その当時、設計・建設に携わられましたミサワホームの設計の方々に、その後10年間の街の変遷というものをご説明いただきたいと思ってお越しいただいています。



図 1-2 事例シートの一例[エムスマートシティ熊谷]

1-2 環境共生住宅事例データベースの拡充

(1) 概要

昨年度に引き続いて、環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅事例データベースの拡充を図った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。

会員企業の協力及び kkj 活動を通じて、地域性に配慮した特徴的かつ先導的な新築事例を収集し、情報発信することができた。

(2) 実施内容

①新築及び改修事例の収集、データベースへの追加

・会員企業から情報提供された次の 4 事例について、令和 5 年 3 月末に kkj サイトへ情報を掲載した。(図 1-3)

1) ZEH21 [積水ハウス(株)]

・完成当初、国内初の全住戸 ZEH 基準を満たす賃貸住宅。13 戸ありながら高断熱複層ガラス等高い断熱性能を確保し、高効率エアコン、LED 照明等の「省エネ設備」を採用することでエネルギー消費量を最大限に削減し、各住戸に必要な太陽光パネルを平均 2.4kW に抑えることで全住戸 ZEH を実現。

2) プライムメゾン浅草イースト [積水ハウス(株)]

・夏涼しく冬暖かい次世代の環境配慮型賃貸マンション。ZEH-M 仕様とし、建物の省エネ性能を向上させることで、昨今の働き方の変化により在宅時間が増加しても入居者の経済的負担を抑え、かつ生活快適性を向上させる住宅を目指した。自然エネルギーを最大限に活用・調節する「パッシブデザイン」を採用し、災害時のレジリエンス強化にも取り組んでいる。

3) セキュレアシティ藤沢翼の丘 [大和ハウス工業(株)]

・「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、子育ても、シニアライフも、障がいを持つ方のライフスタイルにも優しい街。歴史や自然を未来につながる風景のある街。そして、多世代が集う場と、人の輪のある、健康で安心・安全な”ホッ”とする街。ダイワハウスのノウハウを結集させたスマートウェルネスタウン。

4) F 邸 [ミサワホーム(株)、ウィズガーデン(株)]

・緑豊かな周辺環境と敷地内既存樹を生かした植栽計画を行い、周囲の景観と調和した計画。芝の法面や緑化ブロックを使い、無機質な部分を極力隠して自然な雰囲気となる計画をした。

●ZEH21



完成当初、国内初の全住戸 ZEH 基準を満たす賃貸住宅。
13 戸ありながら高断熱複層ガラス等高い断熱性能を確保し、高効率エアコン、LED 照明等の「省エネ設備」を採用することでエネルギー消費量を最大限に削減し、各住戸に必要な太陽光パネルを平均 2.4 kW に抑えることで全住戸 ZEH を実現。

- 環境共生要素技術：[省エネ][省資源][親和性][健康快適]
- 所在地：石川県金沢市
- 竣工年：2018 年
- 設計・施工：積水ハウス株式会社
- 構造・規模：重量鉄骨造「ベレオ」3 階建
延床面積/743.03 m²

●プライムメゾン浅草イースト



夏涼しく冬暖かい次世代の環境配慮型賃貸マンション。
ZEH-M 仕様とし、建物の省エネ性能を向上させることで、昨今の働き方の変化により在宅時間が増加しても入居者の経済的負担を抑え、かつ生活快適性を向上させる住宅を目指した。自然エネルギーを最大限に活用・調節する「パッシブデザイン」を採用し、災害時のレジリエンス強化にも取り組んでいる。

- 環境共生要素技術：[省エネ][親和性][健康快適]
- 所在地：東京都墨田区
- 竣工年：2022 年
- 設計：藤井亮介建築研究所
- 施工：日本建設株式会社
- 構造・規模：鉄筋コンクリート造 7 階建

●セキュレアシティ藤沢翼の丘



「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、子育ても、シニアライフも、障がいを持つ方のライフスタイルにも優しい街。歴史や自然を未来につなぐ風景のある街。そして、多世代が集う場と、人の輪のある、健康で安心・安全な“ホッと”する街。ダイワハウスのノウハウを結集させたスマートウェルネスタウン。

- 環境共生要素技術：[省エネ][親和性][健康快適]
- 所在地：神奈川県藤沢市
- 竣工年：2020 年
- 設計・施工：大和ハウス工業株式会社
- 構造・規模：鉄骨造、延床面積/120 m²

●F 邸



緑豊かな周辺環境と敷地内既存樹を生かした植栽計画を行い、周囲の景観と調和した計画。
芝の法面や緑化ブロックを使い、無機質な部分を極力隠して自然な雰囲気となる計画をした。

- 環境共生要素技術：[省エネ][親和性]
- 所在地：東京都練馬区
- 竣工年：2020 年
- 設計・施工：ミサワホーム株式会社、ウィズガーデン株式会社
- 構造・規模：木質パネル工法

図 1-3 kkj サイトに掲載した事例データベース（令和 4 年度新規）

2. 調査研究活動

2-1 環境共生住宅推奨部品を組み込んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成

(1) 概要

「品確法」に基づく住宅性能表示制度の断熱等性能等級の上位等級である等級5と等級6、7創設、及び一次エネルギー消費量等級6創設に伴い「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の改訂作業を行った。

検討内容は、両ガイドの更新の予定や作成方針、掲載内容、レベル設定の方針などである。

「お勧め建材ガイド」は、6地域編、7地域編の改訂を検討し、6地域編の原稿を作成した。また、「お勧め設備ガイド」は、全地域を対象とし、掲載設備機器の種類を検討した上で、6地域編の原稿を作成した。

(2) 実施内容

①ガイドの作成方針の検討

- ・地域ごとに「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」をセットで発行することを原則とし、温暖地、寒冷地、準寒冷地の順で行うこととした
- ・住宅性能表示制度やZEH、LCCM住宅等の内容も踏まえて、kkjとしてより高い住宅性能を積極的に提案するガイドに方向性を定めた。

②「お勧め建材ガイド」の検討

- ・「お勧め建材ガイド」6地域編、7地域編について、断熱等性能等級6に対応するレベル3の仕様の見直し、同等級7への対応の検討、それらに伴う外皮性能の再計算、掲載製品の再調整を行い、改訂原稿を作成した。
- ・kkjとして推奨する外皮性能レベルはレベル2及びレベル3とした。

③「お勧め設備ガイド」の検討

- ・外皮性能の変更に伴い、一次エネルギー消費量の再計算を行い6地域編の改訂原稿を作成した。
- ・設備の仕様の組合せの表現は、グレード1、グレード2とした。一次エネルギー消費量の算定は、レベル1はグレード1、レベル2とレベル3はグレード2の組合せとした。

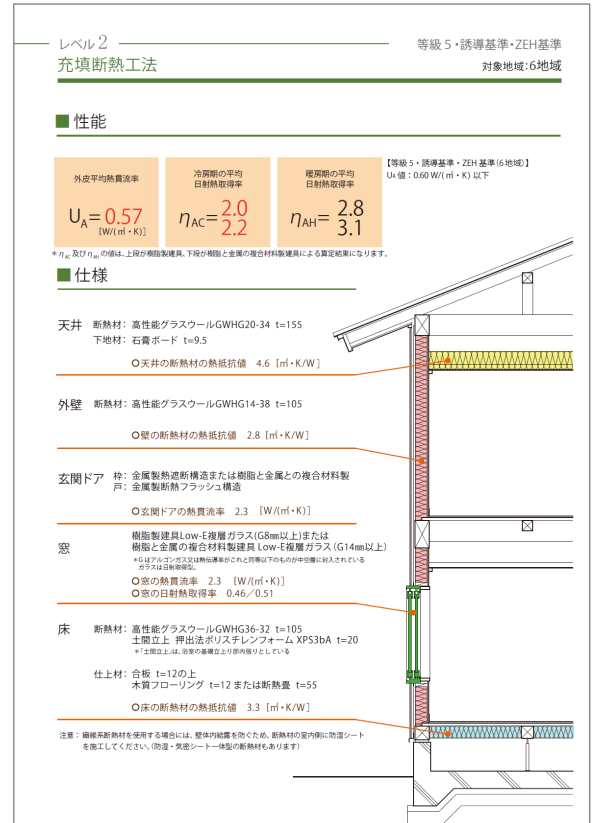


図2-1 「お勧め建材ガイド」掲載ページ例

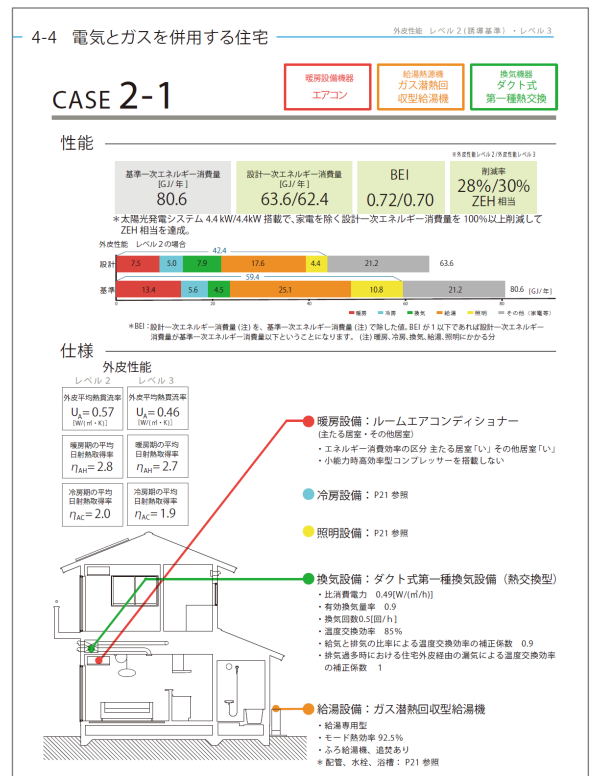


図2-2 「お勧め設備ガイド」掲載ページ例

2-2 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理

(1) 概要

推奨部品の普及を目指し、新規部品分類の追加と既存部品分類の見直し、それに伴う推奨基準の策定・見直し、ホームページ掲載内容の修正等を行った。

また、合わせて環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」についても修正を行った。

(2) 実施内容

①推奨部品の特長を踏まえた新たな部品分類の検討

- ・既存部品分類「給湯機器」を「給湯・給湯暖房機器」と改め、推奨基準も見直した。
- ・新規部品分類として「家庭用リチウムイオン蓄電システム」を追加し、推奨基準を定めた。
- ・既存部品分類「暖冷房機器」の中に「輻射（放射）暖冷房パネル」の推奨基準を追加し、修正した。
- ・既存部品分類の「日射調整部材」を「開口部付属部材」と改めてその中に「カーテン付き付属部材」の推奨基準を追加することとした。
- ・合わせて「開口部材」という大分類を設け、その中に小分類として「開口部材（窓）」、「開口部材（玄関ドア）」、「開口部付属部材」を設けるよう既存部品分類の見直しを行った。
- ・新規部品分類の追加に伴い、「環境性能の強化・拡充項目」を「環境性能等の強化・拡充項目」と改め、「XI レジリエンスの向上」を追加した。また、「IX ユーザーのニーズに応える安心・安全な衛生環境の提供」を「IX ユーザーのニーズに応える安心・安全の提供」に改めた。
- ・新規部品分類の追加に伴い、環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」を修正した。

②ホームページ掲載情報の検討

- ・新規部品分類の追加、既存部品分類の見直しに伴い、部品分類のアイコンや部品紹介の記載内容等について、ホームページの更新を行った。

③新規部品分類のkkjホームページへの掲載

- ・「概要と推奨基準の考え方」を修正した。
- ・新規部品分類として「家庭用リチウムイオン蓄電システム」の「推奨基準」と「登録申請書」を追加した。

- ・既存部品分類の見直しに伴い「給湯・給湯暖房機器」、「暖冷房機器」、「開口部付属部材」の「推奨基準」と「登録申請書」を修正した。



給湯・給湯暖房機器



開口部材



家庭用リチウムイオン蓄電システム

図 2-3 部品分類の追加・見直しによる新規アイコン

④既存部品分類製品の追加掲載

- ・既存推奨部品の登録更新作業を実施した。（2023年2月実施）。
- ・既存部品分類について12製品を追加し公開した（2023年3月末現在）。
- ・推奨部品掲載製品数は、28分類146製品^{※1}となった。

※1：重複登録は、「内装仕上げ材（壁材・天井材）」と「内装仕上げ材（調湿・脱臭建材）」：1件。

表 2-1 2022年度に新たに追加した製品

分類	種類	製品名	メーカー名
断熱材	グラスウール	アクリアネクストa	旭ファイバーグラス(株)
		アクリアマットa	
		アクリアウールa	
		アクリアUボードピンレスa	
		アクリアUボードNTa	
		アクリアaR71	
		アクリアR45	
開口部材(窓)	アルミ製	サーモスA	(株)LIXIL
開口部材(玄関ドア)	アルミ形材断熱構造	玄関ドアXE	
浴室用水栓	シャワーヘッド+サーモスタット水栓	タッチスイッチタイプ	TOTO(株)
家庭用浄水器	家庭用浄水器	浄水機能付き水栓	

3. 広報活動

3-1 ホームページの運用

(1)概要

kkj は 1998 年より、ホームページを通じて、環境共生住宅についての基礎的な情報から、暮らし方や住み心地、関連する最新動向等を常に発信し続けており、kkj の普及啓発活動における効果的なツールとして機能している。令和 4 年度は、子ども向けページの全面リニューアルを実施した他、「環境共生住宅と SDGs」をテーマとしたコンテンツを新たに制作・公開した。



(2)ホームページのアクセス結果

令和 4 年度のホームページのアクセス概要を以下に示す。

表 3-1 アクセス総数の前年度比較

PV 数※1	令和 4 年度	335,439	国庫補助事業	205,917	
				一般事業	105,423
			TOP ページ	24,099	
訪問数※2	令和 4 年度	121,949	国庫補助事業	274,061	
				一般事業	122,710
				TOP ページ	23,373
	令和 3 年度	420,144			
	令和 3 年度	151,064			

表 3-2 アクセス数月平均値の前年度比較

	PV数※1	訪問数※2	1人あたりの平均PV
令和 4 年度	27,953	10,164	2.75
令和 3 年度	35,012	12,589	2.78

※1. PV (ページビュー) 数：ホームページ全体の閲覧ページ数

※2. 訪問数：同じIPアドレスの訪問延べ数

アクセス総数の前年度比較を見ると、前年度よりもページビュー数、訪問数共に減少傾向にあるが、TOP ページへのアクセス数のみ増加した (表 3-1 参照)。

アクセス数月平均値の前年度比較でも、月当たりのページビュー数、訪問数共に減少している (表 3-2 参照)。

一般事業の上位コンテンツ 20 位 (表 3-3 参照) の昨年度からの大きな変化としては、「kkj★Kids」や「くまの家 ものがたり」など、kkj サイトの中で子ども向けとして公開しているコンテンツの順位が上がった

ことが挙げられる。アクセス数の多かった日の解析を行ったところ、「google classroom※」からのアクセス数増加が確認されたこともあり、令和 4 年度の広報活動として授業で使える子ども向けコンテンツの検討・制作・公開を行った。

※Google Classroom: Google が開発した教育現場で役立つオンライン学習システム。クラス単位で生徒や学習内容を運営・管理することが可能。

表 3-3 一般事業上位 20 位コンテンツの比較

順位	令和 3 年度 (2021. 4. 1~2022. 3. 31)		令和 4 年度 (2022. 4. 1~2023. 3. 31)	
	コンテンツ タイトル	PV/ 日	コンテンツ タイトル	PV/ 日
1	kkj 特集	111	kkj 特集	73
2	TOP	64	TOP	66
3	環境共生住宅とは	51	環境共生住宅とは	48
4	地域からの便り	28	環境共生住宅事例 DB	22
5	環境共生住宅事例 DB	23	地域からの便り	20
6	環境共生住宅推奨部品 DB	15	kkj★KIDS	19
7	kkj の 5 カ条シリーズ	14	協議会の紹介	13
8	協議会の紹介	14	くまの家 ものがたり	13
9	ゼロからはじめる環境共生住宅	14	kkj の 5 カ条シリーズ	13
10	ESH パッシブデザインツール	11	環境共生住宅推奨部品 DB	12
11	kkj★KIDS	10	ESH パッシブデザインツール	11
12	くまの家 ものがたり	6	ゼロからはじめる環境共生住宅	8
13	kkj の出版物・ツール	6	会員の環境への取り組み	7
14	会員の環境への取り組み	5	kkj の出版物・ツール	6
15	くらしかた・すまいかた	4	協議会の紹介 INDEX	3
16	協議会の紹介 INDEX	3	くらしかた・すまいかた	3
17	環境共生住宅とは INDEX	3	環境共生住宅とは INDEX	2
18	環境共生まちづくり DB	2	交流セミナー	2
19	交流セミナー	2	環境共生まちづくり DB	2
20	会員専用ページ	2	会員専用ページ	2

PV/日：1 日あたりのページビュー数 (ページが閲覧された回数)

赤字：前年度と比較して 1 日あたりのページビュー数が増えた、もしくは順位が上がったコンテンツ

3-2 会員へのサービス提供

協議会会員へのサービス提供事業としては、

- 見学会
 - 交流セミナー
 - 機関誌の発行
- を実施した。

(1)見学会

①趣旨

各地に建設された環境共生への取り組みを図っている先進的な事例見学を通じた知見の拡大、情報収集を行うことにより、環境共生住宅に対する理解をより一層深め、普及促進を図ることを目的としている。

②実施概要

第1回では、地域住民との新しい価値の創出、最新の環境・設備技術やSDGs対応等の仕様とデザインで建てられた研修施設を見学し、オプションとして奈良県の森林資源の育成と技術開発・新製品開発などを行っている企業の視察と吉野林業の体感する見学会を実施した。

第2回では、「快適な住空間、万に備えた住まい」を改修コンセプトとし「LINKED HOUSE—つながる家—」等を提案した実験集合住宅を見学し、オプションとして超高齢社会の課題を先取りする多世代共生型の健康スマートタウンの見学会を実施した。

- a. 第1回（10月24日開催）／参加者数25名
- ・大和ハウスグループ 未来価値共創センター 説明のみ／大和ハウス工業 奈良工場 環境配慮型 ショールーム
 - ※オプション見学（10月25日 参加者数9名）
吉野かわかみ社中本社と吉野林業
- b. 第2回（2月20日開催）／参加者数12名
- ・大阪ガス実験集合住宅NEXT21
 - ※オプション見学（同日 参加者数10名）
Suita サステイナブル・スマートタウン

(2)交流セミナー

①趣旨

広く環境に関連する最新情報、知見の収集や交換、会員相互の交流の促進を図る場として、当セミナーを通じて協議会の活性化を図ることを目指している。

②実施概要

第1回では、2025年の省エネ基準適合義務化や2030年の省エネ基準のZEHへの引き上げと義務化（予定）をふまえた今後ますます高まる住宅・建築物に関する対策の重要性をテーマとしたセミナーを開催した。

第2回では、脱炭素社会実現に向けた施策や取り組み、世代を超えたSDGsへの対応、ウクライナ情勢による様々な影響等、国内外の動向を見据え幅広い視点からの「新しい環境」変化への向き合い方をテーマとしたセミナーを開催した。

第3回では、環境的視点から建築・都市デザインを見直し自然とつながるデライトフルな建築を中小オフィスビルで展開した考え方や手法等をテーマとしたセミナーを開催した。

- a. 第1回（7月26日開催）／参加者数65名
- ・2050年脱炭素社会実現のためのZEB・ZEHの重要性（早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授 田辺新一氏）
- b. 第2回（1月30日開催）／参加者数101名
- ・新しい環境変化への向き合い方（ミサワホーム（株）取締役／（一社）環境共生住宅推進協議会会長 竹中宣雄氏）
- c. 第3回（3月2日開催）／参加者数34名
- ・「自然とつながる「デライトフル（歓びのある）」な建築～パッシブデザイン手法を取り入れた先進的オフィスビルの設計事例を通じて（川島範久建築設計事務所 主宰 川島範久氏）

(3)機関誌の発行

独自の取材記事や協議会主催の見学会、交流セミナー等の実施レポートをまとめ、計1回発行した。



(4)kkjの活動情報発信

kkjサイトの会員専用ページでは、最新情報への更新・追加に努め、会員向けの情報の充実化を進めた。

3-2-1 見学会の開催概要

(1)第1回見学会

■見学先：大和ハウスグループ みらい価値共創センター（コトクリエ）
大和ハウス工業 奈良工場 環境配慮型／説明のみ

■日 時：令和4年10月24日（月）13：00～16：30

■内 容：

- 大和ハウス工業（株）人材・組織開発部
みらい価値共創センター センター長
池端正一氏による概要説明
- 動画によるみらい価値共創センター紹介
- 施設見学
- 奈良工場の説明

■参加者数：25名

■オプション見学

見学先：吉野かわかみ社中と吉野林業
参加者数：9名

■主な内容

□みらい価値共創センター

風、太陽、水といった自然の要素を活かした技術や取り組みを採用するとともに、古（いにしえ）の歴史ある地という立地条件との関係性にも配慮した企業の研修施設を見学することができた。

□吉野かわかみ社中と吉野林業

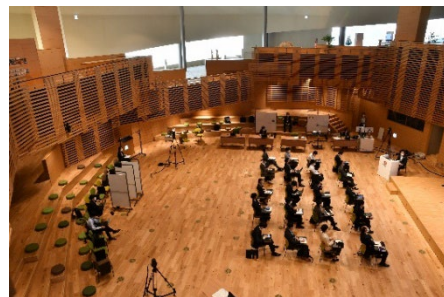
吉野杉を活用した建材や日用品等の開発、森林資源の育成や林業人材育成等の事業を展開している企業の取り組みを視察するとともに長い歴史をもつ吉野林業を体感することができた。



自然素材を用い曲線で構成された外観



風が吹き抜けるのパティオ（中庭）



県産の吉野杉をふんだんに使った太陽のホール



平城京の遺構（柱）の跡をデザインした床

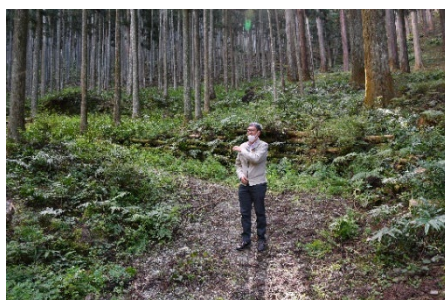


多くの植栽等で深い集中を得られる研修室



万葉集で詠まれた植栽による「万葉の庭」

■オプション見学会の様子



吉野かわかみ社中／上田専務による説明



吉野林業体感



吉野かわかみ社中事業説明

(2)第2回見学会

■見学先：大阪ガス実験集合住宅 NEXT21

■日 時：令和5年2月20日（月）10：30～12：00

■内 容：

○大阪ガス（株）エナジーソリューション事業部
計画部 環境・政策チーム（NEXT21）志波徹氏
による概要説明

○動画による NEXT21 の概要及びフェーズ5の実証
実験に関する説明

○施設見学

■参加者数：12名

■オプション見学

見学先：Suita サステイナブル・スマートタウン

参加者数：10名

■主な内容

□NEXT21

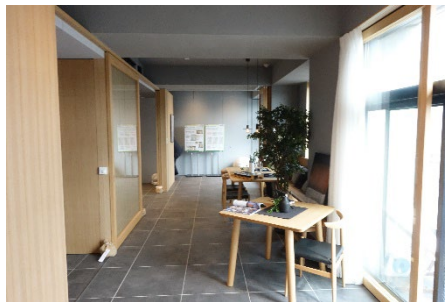
今後も増加することが見込まれている多彩な単身者世帯のこれからのライフスタイルを受け入れる住まいや究極の省エネ性と健康・快適性を両立した住まい、健康管理 IoT 住戸等を備えた近未来型実験集合住宅を見学することができた。

□Suita サステイナブル・スマートタウン

街の消費エネルギーを実質再エネ 100%で賄う再エネ 100%タウン、防災レジリエンスタウン、多世代コミュニティタウン、健康増進ウェルネスタウン等のサステナブルとスマートを実現する大規模複合開発の街を見学することができた。



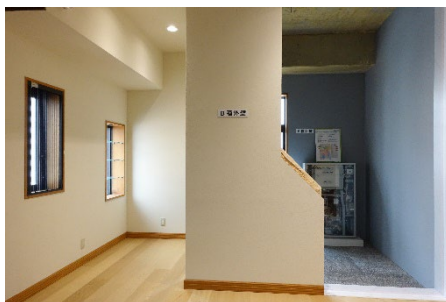
NEXT21 外観



つながる家（605住戸）



つながる家（605住戸）



可視化された建築システム（604住戸）



4G HOUSE（404住戸）



健康管理IoT住戸（202住戸）

■オプション見学会の様子



SuitaSST BASE での概要説明



タブレットを用いた説明



SuitaSST 見学会参加者

3-2-2 交流セミナーの開催概要

(1)第1回交流セミナー

■日 時：令和4年7月26日（火）13：30～15：00

■場 所：オンライン開催（Zoom 利用）

■テーマ：2050年脱炭素社会実現のためのZEB・ZEHの重要性

■講 師：早稲田大学 理工学術院 創造理工学部
建築学科 教授・工学博士 田辺新一氏

■参加者数：65名

■主な内容：

実際にはどうやってCO₂を減らすのか。2つの方法がある。一つは省エネをする。例えば1kWの装置を1時間動かすと1kWhになり、これを3割削減すれば0.7になる。もう一つは原単位を改善する。1kWhをつくるときにどれだけCO₂が出るのかを改善する。例えば再エネに変えていけば0.7で、両方が掛け算で効いてく

る。省エネするというのと原単位を改善するという、この両方が低炭素化には非常に重量である(①)。

日本はエネルギー自給率がかなり低いため他の国よりもさらに徹底した省エネに取り組まなければならないし、自給率を上げるための再生可能エネルギー導入もさらにやらなければならない(②)。

今後、再エネがいろいろ入ってくると時間や風などによって変わる変動型再エネということになるので、揚水の発電所や系統連系した蓄電池などによって調整する必要となる。使う側は、例えばZEHであれば燃料電池やヒートポンプ、蓄電池、電気自動車などで時間をずらして使っていく、自家消費を上げていく、蓄熱して使うといったことが求められる(③)。

再エネはP2Gで水素に一旦変えておいて長期間使えるなど、こうした「あやつる」という技術が非常に重要になってきている(④)。

WASEDA University

0.7 × 0.7 = 0.49

省エネ × 原単位改善 = 低炭素化

kWh × CO₂/kWh = CO₂

①

Department of Architecture, WASEDA University

WASEDA University

- ✓徹底した省エネルギー
- ✓再生可能エネルギーの導入拡大

②

Department of Architecture, WASEDA University

WASEDA University

新しい省エネの概念

エネルギーを最適管理する司令塔

早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 (機構長：林彦弘 ACROSS <http://www.waseda.jp/across/>)

③

Department of Architecture, WASEDA University

WASEDA University

需要削減のための最適需要制御

④

Department of Architecture, WASEDA University

(2)第2回交流セミナー

■日 時：令和5年1月30日（月）16：00～17：30

■場 所：新宿NSビル16階

ミサワホームインテリアホール

■テーマ：新しい環境変化への向き合い方

■講 師：（一社）環境共生住宅推進協議会 会長

ミサワホーム（株）取締役

竹中宣雄氏

■参加者数：101名

■主な内容：

環境の問題は“将来に備えるための”問題ではなく、今の問題であることを認識することが前提である、ということからスタートし、地球温暖化、パンデミックや自然災害、ウクライナをはじめとする戦争や国家間の有事、為替市場、人口減少、少子化と高齢社会等を契機とした様々な社会情勢や環境変化を敏感に捉え、それを有効に活用し、対応できるビジネスモデルを考える中で、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現

を目指していくことが必要であること、企業としての役割や向き合い方について言及された。

人口減少の進行に対しては、働き方改革で出生率が上がった企業を例に出し、少子化対策として企業のサポートが重要であることが示された。

また、空き家問題に対しては、実質的に対象となる50万戸について、バリアフリー化や断熱化などによって高齢者が快適に暮らせる住まいへの建て替えやリフォームやそのための補助が必要であるとされた。

講演の中では「2011年にアメリカの小学校に入学した子供のうちの65%が大学を卒業して就く職業は、今まで世の中にない仕事に就くだろう」というニューヨークタイムズに掲載された言葉が紹介されたが、今後ますます世の中の動きが変化していく中で、これからの若い世代が考える幸せな住まいに対する多方面にわたる観点について示唆に富んだ考え方が示された講演となった。



田中広報部会長による司会進行



講師の竹中宣雄氏



竹中宣雄氏による講演



会場の様子

(3)第3回交流セミナー

- 日 時：令和5年3月2日（木）16：00～17：30
- 場 所：オンライン開催（Zoom 利用）
- テーマ：「自然とつながる「デライトフル（歓びのある）」な建築～パッシブデザイン手法を取り入れた先進的オフィスビルの設計事例を通じて
- 講 師：川島範久建築設計事務所主宰 川島範久氏
- 参加者数：34名
- 主な内容：

□REVZO Toranomom

REVZO Toranomom は 2020 年に完成したオフィスビル。賃貸オフィスビルとして最も特徴的なのは基準階の構成で、オモテ面に対して左右にスプリットコアを設けることで両面採光できるようにし、開閉可能な窓にしてその先にバルコニーを設けて屋外避難階段を設けるという構成にした。こうすることで両面採光、両面自然通風、眺望の確保ができ、さらに外に出られる空間もあるという構成とすることができた。

その他の環境配慮としては、ほぼスケルトンの状態で貸すということが特徴である。天井が張られてなくて空調が現しになっている。床の OA フロアもカーペットを張らずに貸し出す。これにより、この状態がインシヤル（＝現状）なので、入居時も退去時も廃棄物

を減らすことができる。

**□GOOD CYCLE BUILDING 001 浅沼組名古屋支店
改修プロジェクト**

このプロジェクトでより意識的に行ったこととは、循環型社会の実現に向けて「伝統知」を学び、活かすということ。

当初は、柱の外側にガラスがあったものを 2.5m セットバックして半外部空間を設けた。このベランダ空間は、吉野杉と土とプランターに守られたバッファゾーンになっており、この空間自体は、さらに吉野杉のデッキや軒天、ベンチに囲まれている。窓は開閉でき、西向きなので日射が厳しい時は木製の簾を下すことができるようになっている。

基本的には、既存の建物を活用しながら自然の光・風に溢れ、土・木・緑に包まれる空間とした、ということだが、こうした建築を都市における「循環」の中に位置づけ直す、といったことを行っている。

こうした工夫を重ねることにより、運用時の CO₂ は 50%以上削減し、ZEB Ready の認証を取っているが、注目すべきは建設時の CO₂ が 85%以上削減できている点である。

また、脱炭素だけではなく、さらに人間の健康増進といったことにも確かに寄与できていることも、医学的な調査によって行っている。



REVZO 外観



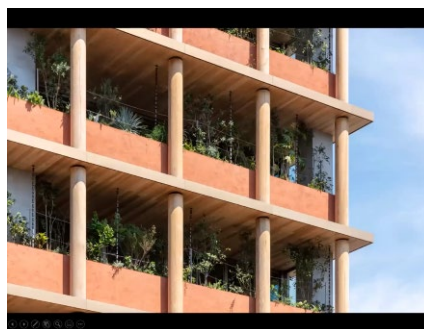
建物両面の開閉可能な窓による採光と通風



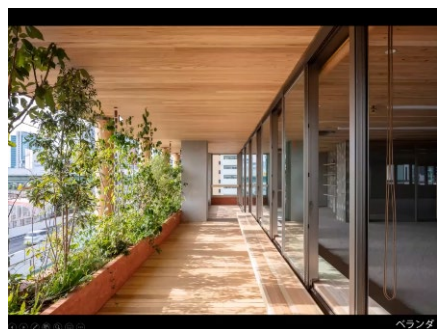
窓の外に設けられたベランダと避難階段



GOOD CYCLE BUILDING 001 外観



吉野杉の丸太と土の鉢植えのあるファサード



木と土と緑に囲まれた豊かなベランダ空間

3-3 会員拡大や協議会の認知度向上等に向けた広報活動

3-3-1 アクセス解析を元にした普及展開活動

(1)概要

令和4年度の普及展開活動を実施するにあたり、前年度～令和4年度前半で特にアクセスが多かったコンテンツについて詳細な解析を実施したところ、「Google Classroom」から「kkjの5か条」や「kkj★Kids」、「くまの家ものがたり」への流入が多かった。「Google Classroom」は、Google が学校向けに開発した無料のWeb サービスで、教師が指導と学習を1か所で管理できるツールである。このことから、kkj サイト内の子ども向けコンテンツが「Google Classroom」を介して、授業で紹介された可能性が高いと推測できたため、授業で使える子ども向けコンテンツの充実化を目指し、当該コンテンツの改編及び拡充を実施した。

いての見直しと合わせて、デザインの見直しも行った。



図 3-1 kkj★Kids TOP ページリニューアル画面

表 3-4 2022 年 2 月 1 日の参照元メディア

順位	ディレクトリ	参照元/メディア	PV 数 (全体に対する割合)
1	kkj の 5 か条シリーズ	classroom.google.com/referral	549 (31.23%)
2	くまの家 ものがたり	classroom.google.com/referral	437 (24.86%)
3	kkj★Kids	classroom.google.com/referral	199 (11.32%)
4	kkj 特集	google/organic	147 (8.36%)
5	環境共生住宅とは	google/organic	89 (5.06%)
6	ゼロから始める環境共生住宅	google/organic	57 (3.24%)
7	ゼロから始める環境共生住宅	(direct) / (none)	42 (2.39%)
8	kkj 特集	yahoo/organic	32 (1.82%)
9	kkj 特集	kids.yahoo.co.jp/referral	24 (1.37%)
10	MH・SR リスト	mail.google.com/referral	15 (0.85%)

(2)子ども向けコンテンツの拡充

①既存コンテンツ「kkj★Kids」のリニューアル

- 令和3年度に実施した「環境共生住宅とは」の文言見直しに続き、kkj★KIDS内の「環境共生住宅って？」等の見直しを行った。
- 検索エンジンを介してのkkjサイトへの流入人口増やすために、記事の中で紹介している文言や環境共生住宅の具体的な取り組みに関する表現方法につ



図 3-2 kkj★Kids 「環境共生住宅とは？」リニューアル画面

ケロリとくまたのセリフのやり取りの画面も吹き出しの色を変える等、より見やすい形に変更した。詳細な説明が必要と思われる単語は、文末で紹介している。

②副教材「環境共生住宅とSDGs」の検討・制作

子ども向けの新規コンテンツのテーマを「環境共生住宅とSDGs」とし、制作に関する企画・検討を進めた。

○子どもの対象年齢：小学校6年生以上

○制作物

形態：A4サイズPDF（ダウンロード用資料）

- ・環境共生住宅の説明資料
- ・授業の副教材として利用できるシート

先生が子どもたちに「環境共生住宅とSDGs」について説明できるようなプレゼンシートと、子どもたちが自分で答えをを考えて書くようなワークシートの2種類を作成した。

3
環境共生住宅とSDGs

★副教材のご案内

2030年を目標とした「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」は、「持続可能な世界」を実現するための道標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

kkjは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

私たちkkjは、SDGsを道標に、「環境共生住宅」をテーマに、子どもたちが自身が、自分の住む家や暮らし方を進んでできる「具体的な問題解決への取り組みを考えるきっかけ」となるような資料を作成しました。

環境共生住宅に決まった形はありません。

資料の前半では、環境共生住宅とSDGs、それぞれの目標やテーマを紹介。

さらに子どもたちそれぞれが大切にしたいこと、やってみたい工夫を選びながら、自分が暮らしたい「環境共生住宅」についてアイデアを出し合えるよう、具体的な環境共生住宅の工夫を紹介しています。

資料の最後にある「ワークシート」は、アイデアをまとめるための記入用紙になっています。

ぜひ、住まいやまちづくりをテーマにした授業の副教材として、お使いください。

対象年齢：11才以上（小学校6年生以上の子どもたちを対象とした授業での利用を想定しております。）

- ★ [先生方へ（本資料についての構成紹介）](#)
- ★ [「環境共生住宅とSDGs」（PDF）」をダウンロードする](#)

住まいと暮らしから環境問題の解決方法を探そう！

この教材では、環境共生住宅で提案している様々な工夫を、トピックとして紹介しています。

子どもたちが自身が、自分たちの暮らしやまち、そして暮らし方からできる環境問題の解決方法について考えるきっかけとして、ご利用ください。

今、地球上でおきている様々な環境問題が、自分たちの暮らしとつながっていることを、私たち一人一人が意識することで、SDGs「持続可能な社会の実現」に向けての大きな力になることを願っています

副教材をダウンロードする >

図 3-3 「環境共生住宅とSDGs」副教材に関する案内画面

環境共生住宅を支える4つの目標とその工夫

kkj★KIDSで公開している「くまの家ものがたり」は、3匹のくまの兄弟が、それぞれに真味のあることを入口に、家族で暮らすための「環境共生住宅」を考えていくお話です。

物語の中に登場する「つなぐストーリー」では、環境共生住宅を支える4つの目標に関する工夫や取組を紹介しています。

タブレットを使って、おうち・おにわ・まちの中でできる工夫や取組はどんなものがあるのか調べてみましょう。

テーマ1 地球環境の保全
目標① CO₂を減らす

をクリックすると、詳しい情報を見ることができます。

おうち

- 断熱性能を高める
- 夏は風を通し、秋風を止む
- 太陽光発電を屋根に設置する
- 太陽の光を室内に入れる
- 太陽光で発電する
- 太陽熱で給湯・給湯する
- その他の自然エネルギーを利用する
- 効率的なLED照明器具や省エネ家電器具を使う

おにわ

- 近隣の緑地を確保する
- 太陽光発電の外灯などを使う

まち

- 地域の緑地を確保する
- 太陽光で発電する
- その他の自然エネルギーを利用する

図 3-4 プレゼンシートの一例

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

kkjは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

環境共生住宅とSDGs

名前

どんな環境共生住宅に住みたいか考えてみよう！

STEP 1 これまでに学習したことを思い出ししながら、自分で取り組んでいきたいと思う環境共生住宅の工夫を考えてみよう。

環境共生住宅のテーマ	環境共生住宅の目標	あなたの考えた工夫
テーマ1. 地球環境の保全	①CO ₂ を減らす	
	②資源を循環する	
テーマ2. 周辺環境との親和性	③地域を愛しむ	
テーマ3. 居住環境の健康・快適性	④健康な暮らしを育む	

STEP 2 班やクラスの仲間とそれぞれが選んだ工夫や、その工夫を選んだ理由を話し合ってみよう。

図 3-5 ワークシートの一例

③WEB ページ「環境共生住宅とSDGs」の検討・制作

kkj30周年パンフレットから「環境共生住宅とSDGs」の記述を子ども向けに書き直し、kkj★Kidsの1メニューとして「環境共生住宅とSDGs」を新たに作成した。



環境共生住宅の3つのテーマと4つの目標が関連するSDGsのアイコンを並べ、視覚的にわかりやすい構成とした。

kkjとSDGsの関係性についても合わせて紹介。業種の違う会社が「環境と共生する家やまち、暮らし」「環境共生住宅」の実現を通じて、SDGsの掲げる目標の達成に貢献していることを伝えている。

図 3-6 「環境共生住宅とSDGs」ページ

4. 普及展開活動

(1) 目的

脱炭素型社会や SDGs に賛同する組織として、社会的要請やニーズに対応すべく体制や活動内容等の更なる充実を図るとともに、地域の工務店・設計事務所等を中心的な対象として、kkj 活動の成果物（出版物やツール等）や蓄積している知見等を総合的・効果的に活用した環境共生住宅やパッシブデザインの普及に資する活動を展開し、会員の拡大を図る活動を実施した。

(2) 実施内容

①「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の普及展開活動

- ・工務店、設計事務所を対象とした「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」オンラインセミナーを実施した（7月5日・8月10日・10月12日 全3回 参加者数合計 17名）。

表 4-1 環境共生パッシブオンラインセミナー概要

開催日時	方法	内容	参加者数
11月22日	ZOOMによるオンライン	①住宅を考える背景 ②地域の気候特性の把握 ③地域における環境共生手法と事例紹介 ④パッシブデザインと住宅の温熱環境シミュレーション	22名

2-5 日射調整

軒・庇による日射調整

屋根や下屋の軒・庇を利用して開口部から侵入する日射を調整する
 ・地域によって異なる夏季及び冬季の太陽高度を考慮して、適切な長さとする
 ・東西面の開口部では、太陽高度が低いので、他の日射調整手法と組み合わせる

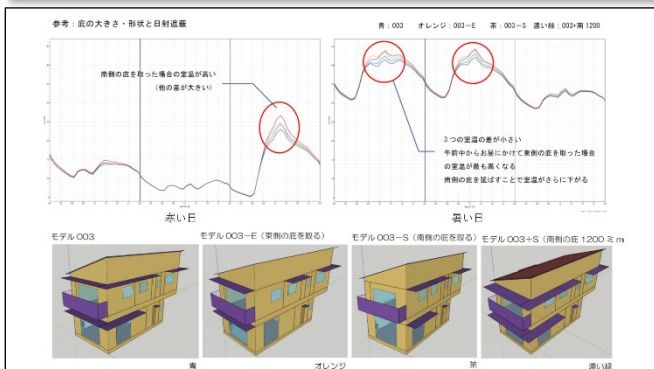
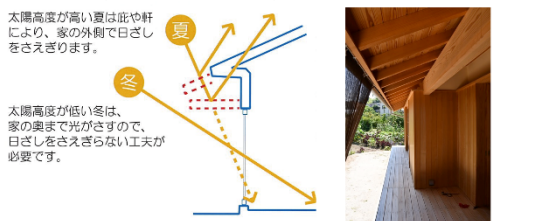


図 4-1 環境共生パッシブオンラインセミナー内容（抜粋）

プログラム：

- 住宅の環境性能に関する背景
- 外皮性能とお勧め建材ガイドの使い方
- 一次エネルギー消費量性能とお勧め設備ガイドの使い方
- 地域の気候特性を踏まえた環境共生住宅

②実務者向け「環境共生パッシブセミナー」による普及展開活動（表 4-1、図 4-1、図 4-2）

- ・『フェノロジー作成ツール』『早わかり設計ガイド』『お勧め建材ガイド』『お勧め設備ガイド』『ESH パッシブデザインツール』を連携活用した工務店、設計事務所、学生等を対象としたオンラインセミナーを実施した（11月22日 参加者数 22名）。

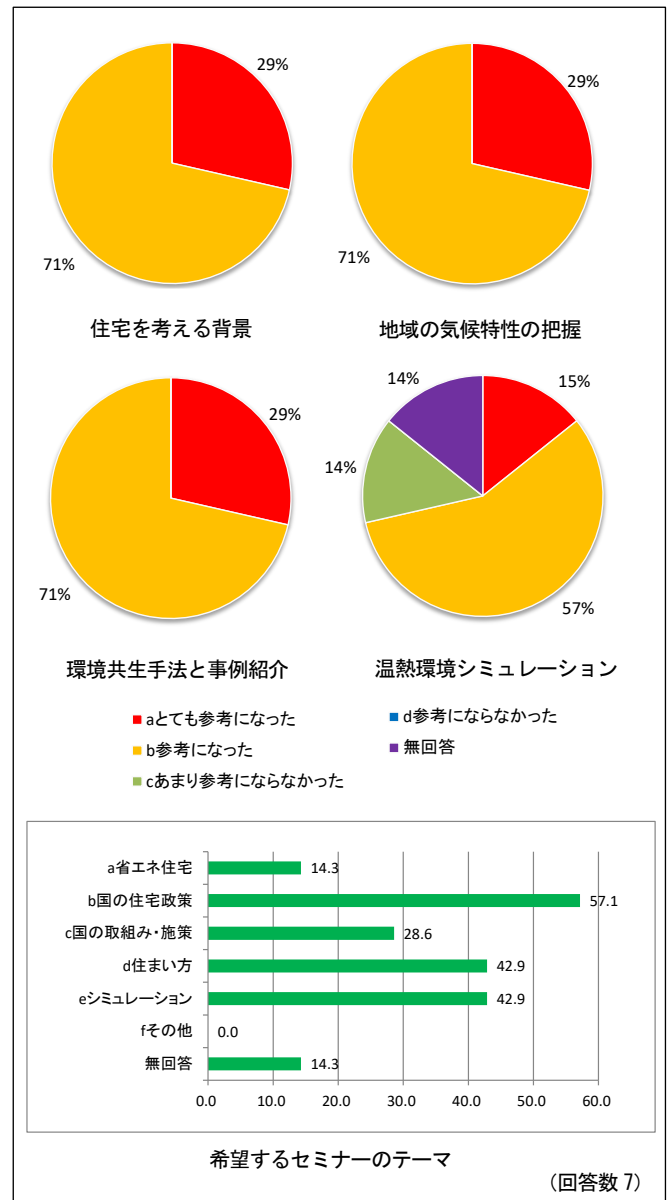


図 4-2 環境共生パッシブオンラインセミナーアンケート結果

③月刊誌「建築技術」への原稿執筆（図 4-3）

・建築技術 2023 年 1 月号の特集（南雄三氏監修）『新環境住宅計画原論』の中で、「I. 大きな視野で考える環境住宅計画原論」のうち「環境共生で考える家づくり」に関する原稿（A4 2 ページ）を執筆した（発刊 12 月 17 日）。

④『ESH パッシブデザインツール』普及展開活動

・日本建築学会における論文発表により活動成果を報告した（論文 2 本 9 月 8 日 オンライン発表）。

（図 4-4）

論文テーマ：

「開口部付属部材による暖冷房負荷の低減効果」
その 1 カーテン等の物性値の設定と単室モデルにおけるカーテン設置による暖冷房負荷への影響
その 2 複数室モデルにおけるカーテン設置の暖冷房負荷への影響

・ESH パッシブデザインツールの計算エンジン


EnergyPlus のバージョンアップに対応した ESH パッシブデザインツールのバージョンアップを検討・実施した。

実施内容：

- ESH パッシブデザインツールに対応可能な EnergyPlus のバージョン調査
- バージョンアップ作業
- kkj ウェブサイトへのアップとダウンロードユーザーへの周知

⑤脱炭素社会推進会議への入会

・脱炭素社会へ向けた提言等を行なうことを目的として、日本建築学会等 22 団体で構成される脱炭素社会推進会議へ入会し、kkj の活動内容を報告した。



はじめは環境共生住宅

1990年に建設省（当時）の提唱によって産声を上げた環境共生住宅は、“地球環境の保全”“周辺環境との親和性”“居住環境の健康・快適性”を基本要件としている（図1）。このうち“周辺環境との親和性”が、かつてオイルショックの時に考え出されたいわゆる「省エネ住宅」と一線を画す考え方であり、環境共生住宅を特徴付ける要素である。これは、地域性豊かな日本の自然環境や社会環境とのかかわりを遮断せず、うまく折り合いをつけながら住まいづくりを行ってきた先人の知恵に学ぶものであり、日本ならではの住まいづくりの考え方といえる。

わが国の住宅に関する省エネ施策は、さまざまな段階を経て現在に至るが（図2），“地球環境の保全”の中で定量的な評価を試みた「省エネ・省資源」が、その後の省エネ基準の進展へとつながってきている。また、当時考え方の一つとして取り入れられていた FACTOR4（豊かさを2倍にするだけでなく、資源消費を1/2に減らすことで効率4倍になる）という考え方がCASBEEの開発へとつながっていった。

このように環境共生住宅のコンセプトのうち定量化あるいは数値化される部分は、さまざまな施策や制度などに展開されてきている。一方、環境共生住宅を特徴付ける“周辺環境との親和性”については、外部とのかかわりを大切にす住まいづくりの計画・設計の中で設計者自らがデザインすることになる。

図 4-3 建築技術 2023 年 1 月号掲載原稿（抜粋）

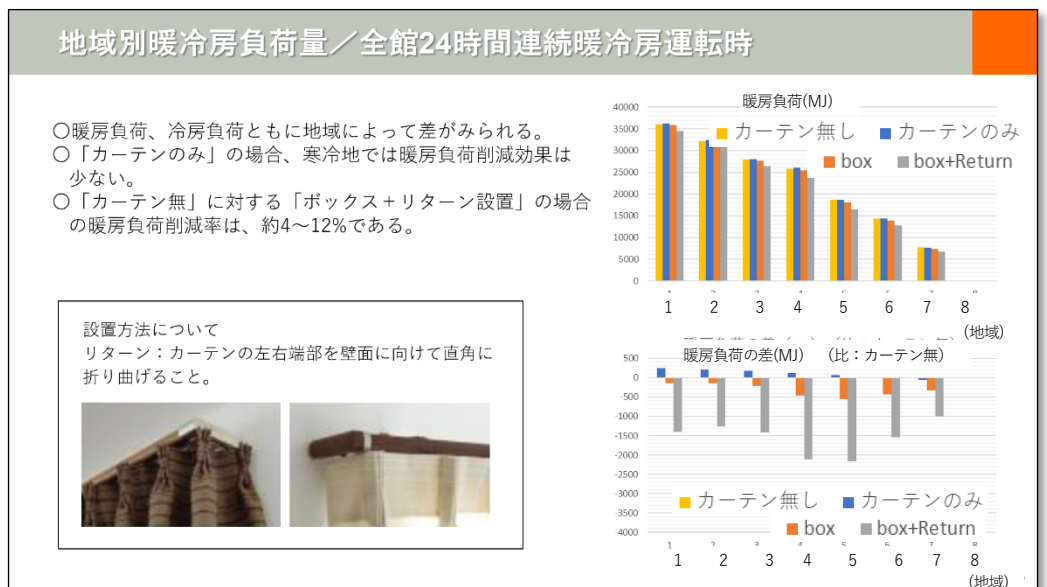
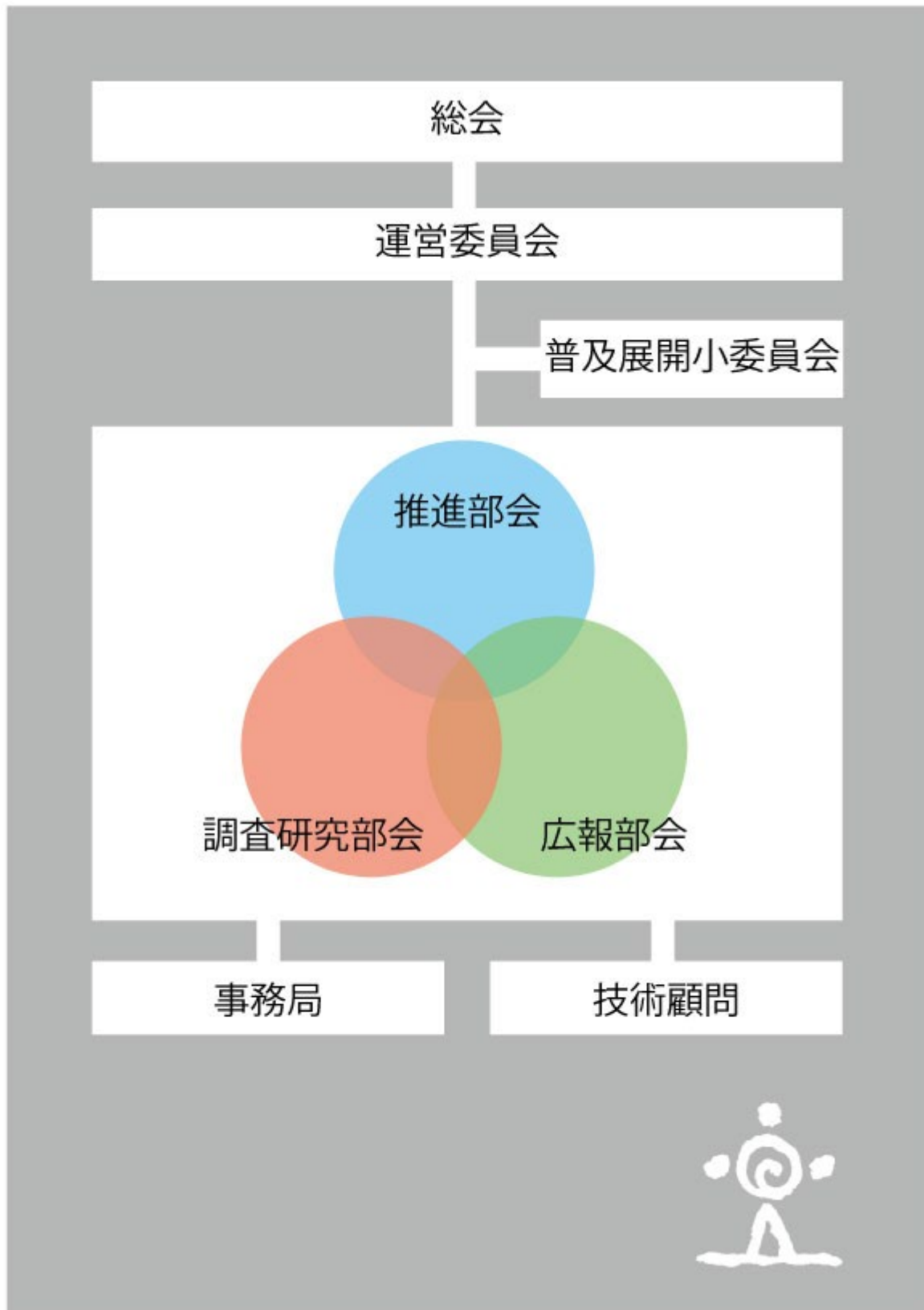


図 4-4 日本建築学会大会発表内容（抜粋）～カーテンの冷暖房負荷に対する効果

令和4年度 環境共生住宅推進協議会
活動体制図





<https://www.kkj.or.jp/>

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 1-15 神楽坂一丁目ビル 4 階

TEL 03-6265-3242 FAX 03-6265-3243